



学校法人神奈川歯科大学 理事長
鹿島 勇

新年明けましておめでとうございます。

昨年、「共創元年」で新しい時代の幕開けを迎えました。今年の年頭の標語は、ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏の“秩序ある混沌”から導きました。

“混沌”とは、物事の区別やその成り行きのはっきりしない様を意味し、無秩序な集団や大混乱の状況を形容します。4年前の本学が、まさにその混沌とした状況であったことは周知の事実でしょう。一方、“組織された混沌”とは、自由闊達な気風の中に組織全体としての目標が明確であり、一定の秩序が保たれており、途方もない奇跡の起こる可能性を秘めた状態を比喩します。ここでいう自由闊達な気風とは、大学人として自由な発想と想像力を発揮でき、それを主張できる職場環境のことを指しており、大学人を外れて勝手気儘に振る舞うことではありません。

改革元年から5年目を迎えてようやく、“混沌”から“組織

組織された混沌から 未来の創発

された混沌”へと、醸成していく手応えを感じ取れるようになりました。この手応えを掴む過程で、私達は多くの有形無形の犠牲を払ってきました。そのことを忘却することなく、組織集団として、ポジティブ心理学というフロー状態（目的達成の課程で、集中とリラックスとのバランスがとれている時、最大の能力が発揮できる最良の瞬間のこと）に達した時、本学の未来の骨格が創発してくるに違いありません。その瞬間を目指して、グローバル化、教育イノベーション、新しい形の法人運営、新病院建築とそれに伴う組織改造を加速させ、今年も更なる改革を推し進めていきます。その一方で、100年の歴史を有するにふさわしい文化力を養い、磨きをかけ、大学としての付加価値をも高めていかなければなりません。

未来から現在を逆算する

20年後の我々を取り巻く環境を推量したとき、18歳人口、歯科医療教育機関の数と教育制度、歯学部への進学率、歯科医師数、TPPによる混合診療と国民皆保険の行方、人口動態等がKeywordとして挙げられます。しかし、確実に来るであろう

我々の未来が、地球規模のグローバル化とそれに伴う国際化であることを疑う余地はありません。そのことを予見し、すでに医師、歯科医師を対象とした国際資格の大綱が、日本を含めた先進国で議論されています。その資格を取得すれば、世界中どこでも医師、歯科医師として働くことはもとより、開業することも可能となるでしょう。

本学は、3年前から積極的に海外留学生の確保に取り組んできました。目的は、そう遠くないスーパーグローバル化を想定し、それに対応可能なグローバル人材の育成と確保にあります。その戦略として、国内の18歳人口減少の実情から、優秀な学生確保の母集団をアジア全域に拡大設定しました。現在、歯学部の1年生から3年生までに、韓国と台湾から50名の留学生が在籍しています。3年後には、本学で教育を受け日本文化を体験した歯科医師が、一塊となって巣立っていくこととなります。その中には、大学院に進学して学位（歯学博士）を取得し、教育者、研究者あるいは臨床医として本学に根付く人もいるでしょう。また、一定の研鑽を積んだ後、グローバルスペシャリストとして母国の教

育、研究機関や政府の医療関係機関に職を求めて旅立って行く人も出てくるでしょう。

入学から旅立ちまでのサイクルが回り始めたとき、学校法人として真の意味のグローバル化が達成されたこととなります。その時、新たなアイデンティティーを有した医療系教育機関として名を馳せ、大学の付加価値も抜きん出て高まっていることでしょう。20年後を戦略的にデザインしたこの構想は、長いスパンで取り組んでいく本学独自の国際プロジェクトといっても過言ではありません。

個の教育を目指して

本学の教育形態は、昨年4月より講座主導型から教育を専門とする総合教育部主導型へと切り替わりました。従来、このような教育形態の大幅な変更は、まずは新入生が対象となり、他の学年は旧方式のまま卒業を迎えるのが一般的でした。しかしながら、今回は全学年を対象に一気に新しい方式に転換しました。講座に拘束されない体系的教育プログラムの立案から実行までを3年間で成し遂げたことは、総合教育部の教育改革への使命感と熱意に他なりません。そして、何よりも教育改善・改

革の必要性を認識した、教授会および教職員の協力と後方支援があつての成功といえるでしょう。

この新教育カリキュラムにより、学生の習熟度は1年を多分割して可視化され、その客観的データは初年次より個別に蓄積されていくことになります。また、より効果的な教育指導の観点から、教員の授業評価・計画・改善の状況等も個別に整理しておかねばなりません。そのためには、膨大なデータを蓄積・管理・運用するためのIR (Institutional Research) 構築が不可欠となるでしょう。

IRとは、一般的に「教育機関における経営・教育に関する情報収集や計画立案を通じて経営・教育改善に資する調査・分析を行うこと」と定義されています。個の教育を目指す本学も、教学IR構築に必要なインフラを整備していかねばなりません。今後、データ収集・管理・運用そしてそれを担う人材の確保と育成に取り組んでいくことになります。

機能的な教学IR構築の完成は、教学マネジメントを支えるツールとして、教員と学生をデータという共通言語で結びつけていくことになるでしょう。さらに、教員と職員によって共有されるデータそのものが触媒として作用し、両者に協働・共創の意識を高めるための橋渡しの役割をも担ってくれることでしょう。その一方で、いかにITを駆使しても所詮は生身の人間であり、直接的な対話や情報交換に勝るものはありません。“テクノロジー (デジタル) はノスタルジア (アナログ) を越えられない”ことを前提にIRを活用してこそ、真の意味

の個の教育が実現可能となります。

このIRを活用した教学マネジメント構想は、教育を総理・総督する総合教育部によって推進していくこととなります。総合教育部は、教育イノベーションを目的に設置された部署であり、選出された教員は単に優秀であるだけの教育者で終わってはなりません。新たな教育宣言を発する一流の教育者集団となってこそ、はじめて総合教育部の存在が認知されることになります。その時、過去の講座主導型の教育から確実に脱却したことが内外からも認められることになるでしょう。

三位一体の総合力

昨年の新年号で、法人の経営状況や教育等に関する正しい情報伝達を目的とした、本学と同窓会支部長との新たな関係構築の必要性について述べました。

そこで昨年7月、学外と同窓会支部長を対象とした情報伝達の場を、法人執行部主催で設定しました。このような試みは、開学以来初めてのことでしょう。学長が現在進めている教育改革について、私が法人の経営状況について報告し、種々の質問を受け、それに応える形で大学の現状と改革の必要性の理解を求めました。

その時、説明内容をより深く理解していただくため、法人理事会、評議員会や教授会等で配布した同じ資料を使用しました。そして、説明内容に対応した箇所をリーフレットにし、そのまま持ち帰ってもらいました。このことは、法人理事会と同窓会とが、共通の情報を媒体として一体化したことを意味します。

さらに、法人と同窓会との絆をより一層強くするための戦略として、九州、中国・四国、東海・信越、関東、東北、北海道の6ブロックの中から1名ずつ、支部長を法人評議員として選出しました。選出された6名の評議員により、大学の経営・教育・将来構想を含め学内で生じている諸々の事象が、修飾されることなく全国の会員に伝達されます。即ち、全国を縦断する法人と同窓会との新たなネットワークが完成したことになります。

また、6名の同窓会評議員と学内評議員がチームを組み、問題提起された課題の解決にも貢献してもらいます。今年の課題は新入学生の確保であり、風評被害を払拭しつつ各地で広報活動に奔走していただいております。

本学は、新病院建築とそれに伴う組織改造を機に、東京サテライトクリニック構想やキャンパス改造と更なる改革へと進んでいくこととなります。法人、教職員そして同窓会との三位一体となった総合力で、それらの成功を勝ち取っていかねばなりません。

付加価値としての文化力

本学は、悠久の時間をかけて創り上げてきた文化力の指標として、昨年5月「人体標本と100年史」と題した歴史資料館を開設しました。この資料館の開設を決断させた動機は、本学と同じ100年以上の歴史を有する名門私立歯科大学の校歌でした。その大学の式典にて、「医はこれ済生ひとえに仁なり」の詩を聞いたとき、鳥肌の立つ思いがしました。その短いフレーズに、凝縮された量り知れない文化力を感じたからでしょう。

以来、「そのフレーズを超え

るものは何か」を思案してきましたが、決定打は見つかりませんでした。折りしも、昨年2月に白菊会会員の御遺族からの御寄付をもとに、人体標本を整備したい旨の要望がありました。そこで改めて標本を見たとき、量り知れないものを“言葉”ではなく、“形”として表現することを思いつきました。完成した景色をイメージした時、強烈な文化力を感じたフレーズは消え去っていきました。さらに、解剖学者でありアーティストでもある横地名誉教授が描いた、繊細で独創的な絵画を目の当たりにしたとき、一抹の不安は確固たる自信へと変わりました。設立の趣旨をご説明した時の、破顔一笑する横地先生の顔が忘れられません。

この資料館の枢軸が、100年の歴史を有する医療人養成機関である大学としての品格の象徴にあることはいうまでもありません。そして、本学を旅立って行った多くの卒業生同士を繋ぐ絆の象徴ともなるでしょう。また、本学を職場として長年働いてきた教職員の帰属意識や、本学を学び舎として選択した在学生の母校意識をも高めてくれることでしょう。さらに、学外との関係構築のためのDiplomacyとしての役割をも担うことになるでしょう。それは、昨年5月17日の開館以来、延べ人数で2,200人以上の見学者数からも明らかです。

見学の対象は医療関係者のみとなっていますが、一般の方々にも事前講義の受講を条件に開放する日がくるでしょう。この資料館が、明日への生きる意欲と活力を起こさせるための深い感動を与える場となることを確信しています。



神奈川歯科大学・
神奈川歯科大学短期大学部 学長
佐藤 貞雄

大学に求められている改革 (ガバナンスとマネージメント)

日本の高等教育改革

いま大学は冬の時代と言われています。大学の進学率は上がりましたが定員割れをして生き残り策を模索している大学も多くあります。その一方では、大学は強く改革の実行に迫られており、安倍政権は「日本再興計画」の中で経済再生の切り札の一つとして大学改革をとりあげ、全国の大学に強く改革を求めています。いま国はどのような改革を求めているのか、このことは神奈川歯科大学が今後改革を進めていく上でも無視できない重要な課題です。

2013年1月に発足した第2次安倍内閣の教育再生実行会議は「これからの大学教育のあり方」(第三次提言)の中で、国家戦略として直ちに取り組むべき方策について提言し(2013年5月)、とくにガバナンス改革を強調しています。国がこれだけ大学改革を強調する背景には、遅々として進まない大学改革への焦りが見え隠れします。国は、平成29年までの5年間を大学改革集中実行期と位置付け、速やかに具体的な政策立案に向けた検討を行い実行するとともに、進捗状況を定期的に検証し説明責任を果たしていくこととしています。

本学は、過去の不祥事からの再生を目指して健全化プロジェクトを立ち上げ、平成22年に改革に着手しました。目指すべき将来ビジョンとして、①未来につながる財政基盤、②貢献が報われ誇りある労働環境、③歯科を核としたグローバルな教育・研究、④国内外のニーズに応える高度先進医療、の4つを掲げました。中でも喫緊の課題として財政再建と教育改革を取り上げ実行してきました。昨年11月7日(木)の文部科学省による学校法人運営調査では、3年間で驚異的な経営回復が評価され、教学面における改革の実行においても高い評価を得ることができました。教職員一丸となった改革への取り組みが認められたものと考えています。しかし、健全化プロジェクトが掲げた将来ビジョンを達成するためには、まだまだ乗り越えねばならない壁があるということも認識しなければなりません。さらなる改革のために必要なのが、ガバナンス・マネージメント改革と言われるものです。

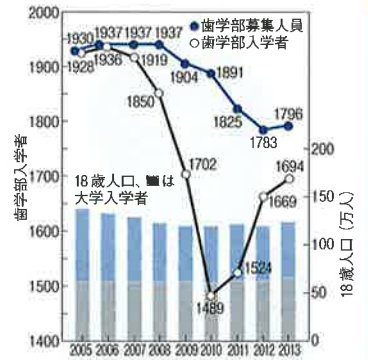
ガバナンス・マネージメントの改革とは何か

篠田道夫氏(私学高等教育研究所、桜美林大学)によると、教育改革推進において学長の統括力を支える大学意思決定機関、教職員による学長補佐体制、学長機構、全学的な教育改革推進組織やIR組織など教育を学部任せにしない組織改革が必要であるとし、ガバナンスの確立という観点から学校法人の運営上、理事長・学長の権限強化、学長選任制度の検討、教授会の審議事項の明確化、財政権・人事権・組織権限の整理、意思決定組織の明確化、政策調整会議等の設

置などが必須であるとしています。これらの整理確立によって経営基盤の安定化を図るのが狙いです。一方大学は、一般の会社組織とは異なり教学マネジメントという特殊な側面を持っています。大学では、学生と向き合うことで質の高い職業人を育てるため教職員の意識を改革改善に向けていくというソフトの部分もまた重要です。ここで教学マネジメントというのは、大学の理念・目標・計画の策定、中長期計画の確立、計画・政策の浸透・共有、計画の具体化・評価、内部質保証システム、PDCAサイクル、教職員の育成・参画のしくみなどの確立を意味しています。

歯学部の動向

全国の私立歯科大学にも冬の嵐が吹き荒れています。2005年頃より歯科医師過剰時代と言われ歯科医師を目指す入学者が減少しました。とくに2007年から2010年にかけて歯学部入学者は激減しています(図)。2010年以降、歯学部入学者は徐々に回復する傾向にありますが、なお全体としては歯学部募集人員を下回っています。また2020年以降には再び18歳人口は減少することが予想されているので、私立歯科大学の置かれている状況は決して明るくはありません。このような社会的環境の中で大学が生き残る最大の課題は教育改革です。中央教育審議会(平成24年)の答申では、①教育課程の体系化、②教員間連携による組織的な教育、③教育方法の改善、④初年次教育の強化、成績評価の厳格化、⑤学修成果の把握と改善、⑥教員の教育力の向上などが提案されています。神奈川歯科大学ではこれらの提案を踏



まえ教育専門部局として総合教育部を設置し、歯学教育課程の徹底的な見直しを行い、昨年4月より新教育システムを開始しました。また、本学が生き残っていくために最も重要なのは、単に教育改革を実行したというだけではだめで、今後とも改革を継続に向かわせる仕組みとしてのガバナンス・マネージメントの一体改革が重要となります。また教職員が協働して一定方向に進むためには、目標となる計画(中長期計画)が必要です。

教学マネージメントの中長期計画

健全化プロジェクトは教育研究面に関して、歯科を核としたグローバルな教育・研究、および国内外のニーズに応える高度先進医療を将来ビジョンとして掲げました。これらを実現するためには中長期計画を立て実践に向かわなければなりません。教学としてのビジョンは、本学の学生が、①大学に誇りを持ち生き生きして勉学に取り組み、②主体的な学修によって到達目標に向かって成長し、③卒業後は社会で評価され、母校への帰属意識も高く、④本学の教育・研究、在学生、卒業生を見て受験生が本学に入学したいと思う、また⑤グローバルな人材育成も推進することです。いまこのビジョンを達成するための中長期計画を策定し、着実に実践していくことが求められています。



附属病院 病院長
小林 優

新しい時代の歯科大学を目指して

新年明けましておめでとうございます。

今年は、本学が横須賀の地に移転し神奈川歯科大学と改名して50周年の節目に当たります。正しく飛ぶ鳥を落とす運勢と称される甲馬に相応しい年となりました。こうして記念すべき年

を無事に迎えられるのも皆様方のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

思い起こせばこの5年間は本学にとって地獄でした。創設当時は高度成長の強い追い風を受けて順風満帆であった経営環境も、少子・高齢化社会の到来とともに大きく変貌し、いつしか新たな時代への早急な対応が必要となったのでした。平成17～19年頃、国を挙げて大学改革の必要性が叫ばれ始めた正にその時期に、事もあろうか本学は資産運用に熱中し、深刻な経営危機に陥りました。学内は混乱を極め、一時は誰もが本学の終焉を予感したことと思います。平成20年から文科省の指導が始まった経営再建5か年計画も、

新体制が誕生した時には既に2年が過ぎ、残る3年間で2度の黒字化が再生の必須条件となっていました。不可能とも思える課題を前にして、私自身、計画の練り直しに必死だった思い出が昨日のこのように思えます。その後しばらくは失望と混乱の中で多くの同胞を失いました。しかし、残る皆様方の献身的な努力によって再建計画は予想以上の大成功を収め、昨年をもって減額法人の汚名を返上することができました。この間、経営、教育、臨床、研究の各分野で組織改革が進められ、本学は新たな時代に向けて根本から生まれ変わりました。特に、一昨年から始まった教育改革は、どん底を経験した者にしかできない真

に先進的な取り組みであり、文科省運営調査においてもその方向性の確かさが高く評価されたところでした。また、昨年は本学の歴史と伝統を讀める資料館も開設され、既に2,200人を超える来場者を迎えることができました。さらに、来年には新病院の設立も予定されており、アジアに冠たる高度先進歯科病院を目指して、現在、急ピッチで準備作業が進められているところです。

我が神奈川歯科大学は、新時代の歯科大学として、今年から新たな一歩を踏み出します。本学と皆様方の未来が明るいものでありますことを心よりお祈り申し上げます。



附属横浜クリニック 院長
井野 智

平成26年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年3月12日(火)、横浜クリニックは地元歯科医師会と地域医療連携について一致協力して推進していく旨の『合意書』を取り交わすことができました。これも偏に、設立以来、信頼獲得に向けて日々努力してこられた横浜クリニックのスタッフの皆さんの成果と推察し、心より感謝申し上げます。また、7月には、多

数の医療関係者のご出席を頂戴して第1回地域医療連携報告会・懇親会を開催することができ、設立11周年目にして、新たな横浜クリニックの船出にふさわしいイベントとなりました。言うまでもなく、地域の方々との交流は、当クリニックが社会的に認知・信頼されるためにも重要なプロセスであり、今後も更なる活動を展開していきたいと考えております。

さて横浜クリニックは、あらゆる無駄を削ぎ落とし、更なる経費削減に取り組みました。一方で、「最新医療の整備」としては、一昨年の上部・下部内視鏡システム導入に続いて、全身撮影用X線CT装置(2列)も、最新の低被爆で高画質(16列)に切り替え導入して、医科・歯科の健診部門のさらなる強化を図っています。また、震災時に破損したままになっていた壁の修復工事、患者様用トイレにウォシュレットの

設置、高速道路側に面する病室(個室)で快適に過ごしていただけるよう絨毯の敷設・液晶テレビへの入れ替えなど、患者様サービスに繋がるものは積極的に手掛けてまいりました。また、売店でのセール企画(いい歯の日)はスタッフの手作りポスターも好評で、想定を超える売り上げ実績に繋がりました。診療面では、小児・障がい者歯科を整備して、全身麻酔管理下における診療体制の強化、消化器内科での内視鏡治療(入院)や眼科での白内障手術後の日帰り入院など、患者様のニーズに柔軟に対応できる体制づくりに取り組み、その結果、特に医科部門の業績向上がクリニック全体の底上げにつながりました。昨年9月からは、横浜クリニックの『顔』ともいえる受付・会計スタッフも、設立11周年目にして、初めて外部業者への業務委託を廃止し、新規採用ス

タッフらが自ら選定した新制服に身を包み、医療スタッフの一員としてチーム医療の充実化に向けて奮闘しています。もちろん、これらすべては、現場スタッフが細部にわたって知恵を出し合い、自ら進んで協力して目標に向けて前進している結果であります。

間もなく、私が院長として就任して2年が経過します。スタッフの皆さんと共に努力した成果が確実に表れ、更なる発展を遂げる1年、力強い午年になることを祈願してやみません。良い年になりますように。





学校法人神奈川歯科大学 事務局長
峯村明彦

新しい風土へ

新年明けましておめでとうございます。近年、私立学校法の一部改正に伴い学校法人における管理運営制度の改善として理

事制度の改善、監事制度の改善、評議委員会制度の改善が求められ、財務情報の公開と共に公共性を有する法人としてアカンパビリティを果たし、関係者の理解と協力を得られるよう学校法人を運営しなければならない状況になりました。その際、当然のごとく理事会によるガバナンス機能の強化が重要な課題として挙げられ、社会的な関心を呼んでいます。

事務職員は、私学が置かれているこうした環境を理解した上で、本学における組織の健全化

及び効率化を推し進めなければなりません。その一つとして健全化プロジェクトが提唱した「貢献が報われ誇り有る労働環境」の構築の実践として、評価・育成制度を導入しました。3年目となる平成26年はこの評価・育成制度を定着させ、事務職員全体の能力の底上げをテーマとして掲げていきたいと思えます。事務職員はしっかりとした行動目標を持ち、常に社会やステークホルダの要請を把握し、学生・患者に最良のサービスを提供する姿勢を持って行動するという“風土”

創りに心がけて行きたいと思えます。課題の一つであった歯科大・短大の教学の統合、図書館の一本化はほぼめどが立ち、すでに一部運用が開始されています。今年は創立104年、横須賀移転開学50周年の年になります。周年事業の目玉として新病院建設が予定されています。

平成26年は明るく、前向きな事務組織として“新しい風土”の構築に頑張っていく年にしていきたいと思えますので、皆さんの更なる協力とご支援をお願い致します。



神奈川歯科大学 同窓会長
大館 満

年頭のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様には日ごろより同

窓会活動に対しご協力を賜り心より御礼申し上げます。歯科界にかかった雲が消え去ったとはいまだ言えませんが昨年の参院選での勝利、歯科大学全体の受験生の増加等、明るい兆しがわずかではありますが見え始めています。

大学においては財務の安定、受験生の確保、国家試験への対応の三つが大きな課題となっています。財務面はご承知のようにほぼ不安はなくなりました。

また、本年度は受験生確保も順調に推移していると伺っております。昨年7月の評議員会で同窓会全国の6ブロックから法人評議員6名が選出され、現在、大学法人と同窓会の協力関係が過去に例を見ないほど堅固に構築されています。当然、同窓会の責任も大変重いと承知しております。

さて、同窓会の懸案事項である同窓会改革については現在大詰めを迎えております。これか

ら10年、20年耐えうるシステムの構築を目指しております。成立に皆様のご支援と協力をお願いいたします。

まだまだ先は見えませんが、今年こそ良い年であるように願っております。皆様には今後ともご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本年も皆様のご多幸とご健勝を心より祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。



神奈川歯科大学短期大学部 同窓会長
名取すみ子

新しい年をお揃いでお迎えになりました事お慶び申し上げます。

昨年は校名変更と大変な節目になりましたが、混乱もなく新たな一歩を踏み出すことができましたこと、これも皆様方のお陰と感謝しております。

さて短期大学部同窓会にとって本年は創立60周年を迎える記念すべき年になります。

日本女子衛生短期大学、湘南短期大学、神奈川歯科大学短期大学部と校名は変わりましたが、同窓会も創立60周年を迎えることとなります。60年と

いえば、還暦の年でございます。大岡山を卒業された方も、横須賀で衛短と親しまれた方も、湘南短大と同じ卒業生です。学科も商経学科、国文学科、ヒューマンコミュニケーション学科、歯科衛生学科、看護学科の卒業生も同じ大切な同窓生です。

是非短期大学部同窓生の皆様方には記念式典にご参集して歴史を一緒に共有し、記念式典を成功させていただきたいとお願いする次第でございます。

日時はこの秋11月22日(土)会場は横浜ベイシェラトン&タワーズで予定しております。皆様方お誘いの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

絆の大切さ、このような伝統ある学校を卒業した事を誇りに思い皆様の夢が大きく実現することを祈念し新年のご挨拶いたします。

神奈川歯科大学公開講座開催！

本学は、横須賀市民および勤務者を対象に多様化した学習要求に応えるために、本学の特色を生かした公開講座を今年度も無料で開催しました。なお、今年もターゲットを高齢者に絞ったこともあり参加者のほとんどは高齢者でした。

第1回は10月16日(水)「初めて覗く人体の神秘 ～解剖資料館の旅～」で、献体について白菊会担当の勝野賢一氏から説明があり、その後口腔解剖について松尾雅斗准教授(口腔科学講座)、全身解剖について飯村彰講師(口腔科学講座)から丁寧な講義があり、参加者

全員が熱心に聴き入っていました。

その後、2班に分かれて横須賀臨床研修センター1階に新設された解剖資料館に赴き、丁寧な説明を受けながら見学しました。横地千似先生の各言語に翻訳された解剖学教科書を見た後、実際の標本を見て深い感銘を受けていました。

第2回は10月24日(木)「転倒予防のためのコーディネーショントレーニング ～神経・感覚器を向上させましょう～」で、川上正人准教授(体育学)による実習が体育館で行われました。

川上先生の高齢者を中心とした

実習は5回目で、毎回好評であり、複数回受講される方が多くいます。骨粗鬆症の話の後、大腿と下腿の角度の測定や左右の脚の長さを測定したり、そのゆがみをとる体操などを熱心に実践したりしていました。最後に手の反射神経を測定する川上先生手製の“棒”をお土産にもらって喜びのうちに終了しました。

第3回は11月6日(水)「大規模災害と身元確認 ～あなたがあなたであることの証明～」で、大平寛講師(災害医療歯科学講座)が担当しました。講演では今までの大規模災害時の身元確認方法がいくつか示され、顔貌や指紋は時間経過で困難になること、歯科所見

はカルテの破棄により失われることなどから、その中でDNA鑑定が最も確実であることを示されました。

その後、DNA鑑定の説明があり、今回特別に無料でDNAを登録することに多くの方が賛同していただき、実際に採取が行われました。

いずれの公開講座も好評のうちを終了しました。来年度もまた開催する予定ですので、ご意見がございましたら、学術交流委員会までご連絡いただきたくお願いいたします。



平成25年度神奈川歯科大学短期大学部 アカデミックサポート委員会主催 生涯学習セミナー

今年度も10月3日(木)から学校の施設を利用して、下記の3講座が開講され多くの方々に参加をいただきました。この講座は毎回参加されるリピーターの方が多

い人気の講座です。生涯学習セミナーは学習機会の提供と同時に、人との出会いの場であり、さらに大学としては地域社会との絆を形成する場としての役割を担っていま

す。今年は教室の設備が新しくなり、大学ファンのリピーターの方々からは教室が綺麗になりましたねという嬉しい

感想もいただきました。

生涯学習の推進、講座・事業の実施に

あたりご協力いただいた講師の先生方には心より感謝申し上げます。(アカデミックサポート委員会)

講座	講師	日程
「語られない歴史」の真実Ⅲ	斎藤八朗先生	10/24・31 11/7
古寺・名刹の仏像を巡る	地崎広先生	10/3・10・24・31 11/7
一絃の琴を弾く	新倉涼子先生(横須賀市重要無形文化財保持者) 新倉響作先生	10/3・10・24・31 11/7

警察官研修会の開催

平成25年11月24日(日)全国初となります、警察官を対象にした研修会を開催しました。

本学は、世界に誇る人体標本を貯蔵し、全国の歯科大学初の司法・行政、承諾解剖を行う「神奈川県死因調査事務所」を設置しております。また「遺体専用CT装置」を完備し更には、DNA鑑定の権威である山田教授を擁し、解剖・法医学を学ぶ最高の環境が整っております。

今回は、この分野の知識が不可避である「警察官」向けに研修プログラムを考案し、本学源川特別顧問の御尽力で神奈川県警察本部へ提案しました。県警本部では

非常に高い関心を寄せて頂き、当初定員50名のところ、希望者殺到の為70名の増員要請を受け、更には一般の研修会への参加は異例中の異例である、刑事部長様もご参加頂く事となりました。なお、この研修会は本学社会貢献プロジェクトの第1弾として開催されましたことを追記致します。

当日は晴天に恵まれ、会場である本部棟は、独特な雰囲気になりました。参加者が全て警察官という今までに無い緊張感は貴重な体験でした。今回は、刑事総務課・捜査一課・鑑識課・交通捜査課及び県下各所轄の総勢72名の方々にご参加頂きました。

午前9時、鹿島理事長より開会の挨拶、県警本部を代表し鎌田刑事部長より「初の試みであるこの研修会を大変期待しております」とのお言葉をいただきました。

第一部「講義」は、高橋(常)教授(3次元画像解剖学講座)によるCT画像症例の紹介、客員教授津田監察医による解剖学の知識、最終講義は山田教授(災害医療歯科学講座)による「DNAの知識」と続いた講義は予定時間を多少超過致しましたが、非常に自身の濃い講義でした。

その後、場所を解剖実習棟に移し、慰霊碑前での黙祷を経て、第二部「実習」を行いました。受講者を2班に分け、実習棟での骨実習と人体標本を見学頂き、約3

時間の研修会は無事終了致しました。受講者のアンケートでは、多くの方に「もっと時間を掛けて頂きたかった」との声を頂戴し、参加者全員の方より「次回も是非参加したい」との声を頂きました。

翌日、県警本部に伺い、刑事部長より「非常に為になりました。是非、継続的な開催をお願いします」とのお言葉を賜りました。多くの反省点・改善点が残りますが、継続的な開催を視野に入れ、社会貢献活動を続けてまいります。



John Killip 先生特別講演 — NDOA-KDU 継続教育プログラム —

長年に渡りミズーリー州立大学カンザスシティー校歯学部 (UMKCSOD) に於ける、KDU 学生の為の短期訪問プログラムに多大なる御協力を頂いている John & Kathy Killip 先生 (UMKCSOD 名誉教授) ご夫妻が 2013 年 10 月 17 日 (木) に本校を訪問されました。

夕刻からは、米海軍歯科医療部門 (NDOA) と KDU が協力して行なっている継続教育プログラムに於いて、Killip 先生による特別講演 (演題 “The Evolving Faces of Dentistry.”) が KDU 本館 5 階会議室で行なわれました。特別講演は、本来海軍基地内で行なわれる予定でしたが事情により場所を KDU に移し、米海軍医療部門、自衛隊医療部門、横須賀共済病院、開業医、KDU 等から約 40 名の参加があり、講演に先立ち、各分野の先生方と歓談する機会ももうけられました。

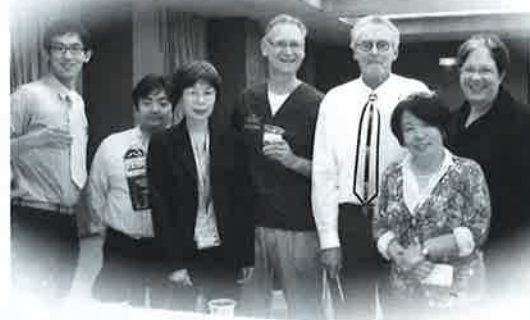
又、ランチタイムには今まで 13 年の間に、プログラムに参加した多くの学生の内の何人かが集まりランチタイムセミナーを行いました。それぞれの臨床経験やリサーチについて発表があり、思い出話も含め日本の歯

科の将来を担う若い専門家達の姿をご紹介する機会となりました。

Killip 先生は昨年 UMKCSOD を退職され、新しい担当者にこのプログラムを引き継がれましたが、様々な場面で継続して御協力頂いています。このプログラムでは、学生達に、短期間ながら講義や臨床見学等を通して米国の歯科教育の一環を見学す

る機会を作って頂き、又開業医訪問や、ご夫妻の自宅でのパーティー等を通して、様々な経験が出来る様尽力して下さいました。改めて感謝の念を表したいと思います。

Thank you John and Kathy for coming to visit us in Yokosuka!



花粉症治療の最新情報



附属横浜クリニック耳鼻咽喉科
荒木康智 特任講師

もうすぐ花粉症の季節がやってきます。アレルギー性鼻炎や花粉症の有病率は、人口の約 4 割とも言われ、まさに国民病とも言えます。今までは薬物による治療

が中心でしたが、近年新しい治療が次々と実用化されています。

一つ目は、スギ花粉症に対する「舌下免疫療法」です。スギのアレルゲンエキスを舌下に投与する方法で、欧州ではすでに広く行われている治療です。従来の注射による免疫療法と比べて副作用が少なく、家庭でも施行できるというメリットがあります。今までは高額な自費診療で行われておりましたが、近々、薬事法上の認可がなされ、保険診療で治療できるようになります。

費用負担が低減することで、広く普及することが期待されています。

二つ目は、通年性アレルギー性鼻炎に対する「後鼻神経切断術」です。鼻炎の症状を引き起こす自律神経の細い枝 (後鼻神経) を、内視鏡と細い針を用いて切断する手術で、本邦で徐々に広まっています。薬物で改善しない難治性の鼻炎に対して、長期的に劇的な効果が期待できます。技術の進歩と共に、日帰り手術や短期入院での手術が可能な病院も出てきました。薬物治療も負けてはいません。新しい内服

薬や点鼻薬の開発も進んでいます。花粉症に対する季節前投与の有効性のエビデンスも確立してきました。知識と備えがあれば、アレルギー性鼻炎や花粉症の症状を押さえ込むことも可能です。憂鬱な花粉症の季節が近づきましたが、今年は前向きになって、少し早めに受診を考えてみませんか。

《公開講座：平成 26 年 1 月 25 日 (土) 14:00 ~ 15:00

問合せ先：附属横浜クリニック地域医療連携室 TEL 045-313-5047

神奈川県公衆衛生協会長賞受賞

平成 25 年 11 月 1 日 (金) の神奈川県公衆衛生協会総会において、本学大学院口腔衛生学講座が神奈川県公衆衛生協会長 (黒岩祐治知事) 表彰を授与されました。これは 40 年にわたる三浦市の保育園・幼稚園にお

ける同講座の歯科健康管理活動の功績がたたえられたものです。以前、三浦市はう蝕の多い地域でしたが、園児の口腔内写真を活用した歯みがき指導とフッ化物洗口等の活動を継続した結果、う蝕を経験したことのない園児

は 3 歳児 71%、4 歳児 61%、5 歳児 52% と全国レベルにまで改善されたとのことです。



東京矯正歯科学会大会・日本矯正歯科学会大会 優秀発表賞受賞

平成 25 年 7 月 18 日 (木)、有楽町朝日ホールで開催された第 72 回東京矯正歯科学会大会において、口腔科学講座 歯科矯正学特別研究員 大塚剛郎先生は「脳磁図による下歯槽神経機能障害の客観的評価」の研究発表を行い、優秀発表賞を受賞されまし

た。大塚剛郎先生は第 70 回、71 回東京矯正歯科学会大会でも優秀発表賞を受賞し、三年連続の受賞となりました。

平成 25 年 10 月 7 日 (月) ~ 9 日 (水) に長野県松本市で開催された第 72 回日本矯正歯科学会大会において、同講座大学院 3 年成

松侑梨先生は「チューイングによるストレス軽減の脳内メカニズムの解明」の研究発表を行い、学術大会優秀発表賞を受賞しました。両先生方とも今後の一層の活躍を期待しております。



第 19 回卒後臨床研修医指導歯科医師講習会開催

平成 25 年 11 月 2 日 (土)、3 日 (日) の両日、神奈川歯科大学横須賀研修センターにおいて、第 19 回卒後臨床研修医指導歯科医師講習会を開催いたしました。例年通り学内外から 32 名の先生方が御出席下さり、大変楽しく有意義な講習会となりました。また、今年度はチーフタスクフォースと

して新たに東京医科歯科大学から新田浩先生をお迎えし、貴重な講演を行っていただきました。新田先生ならびに御出席いただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。御参加いただいた先生方には、是非今後の卒後臨床研修に御協力を賜りますようお願い申し上げます。近年募集定員を



上回る申し込みをいただいております。今回受講していただけなかった先生方には心よりお詫び申し

上げますとともに、来年度の参加を御願ひ申し上げます。

平成 25 年度 競争的資金獲得

種別	研究種目	採択件数
科学研究費補助金	基盤研究 (B)	4
	基盤研究 (C)	24
	挑戦的萌芽研究	7
	若手研究 (B)	14
厚生労働科学研究費	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	1
科学技術振興機構 (JST)	研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム フィジビリティスタディ [FS] ステージ探索タイプ	1

NPO法人 神奈川歯科大学南東アジア支援団 KDC(U)-SASの2013活動報告

1) タイ・ブーケットの歯科健診・予防指導は3月と8月に幼稚園・小・中・障がい者学校に於いて

健診・予防指導・成長発育の経過観察を実施しました。本年よりフッ素洗口を開始しました。現地

2) フィリピン・ネグロス島・ドマゲティーの口唇口蓋裂手術支援活動は8月に実施しました。今回は14名の手術を行いました。毎年治療希望の患者さんが増えています。

しかしながら、フィリピンの

医療許可証が年々厳しくなり、準備段階での手続きが煩雑になりました。なかには再来して診察を受ける患者さんもいますが経過が順調で表情も豊かになり活動の成果が有ります。同国の経済が良くなったのか治療費を

3) ベトナム・ハイフォン及びミャンマー・ヤンゴンの視察活動は4月から5月にかけて実施しました。ベトナムはベトナム戦争の影響で高齢者が少なく国民の平均年齢が28歳と若く、しかし人口は7,000万人以上と急激な増加を見せています。

その為、幼・小・中の人口が

多く健診は実施されているが治療が追い付かない状態です。ミャンマーは国立病院では、無料で医療すべてが受けられますが、施設が少なくまだまだ不足した状態です。歯科医療も同様の状態です。更にインフラ整備も発展途上で停電も度々起きるとのことです。近年、開放政策を推し進

の生徒たちの口腔衛生状態が良くなって来ていることが判り、経年的に実施してきた活動の効果が出てきたと思われます。

今回、陸前高田で震災被災後いち早く診療所を立ち上げられた吉田先生と奥様も参加しました。



ブーケット歯科予防活動

払ってでも手術を受けたい人もいました。現地のスタッフも口唇口蓋裂手術の技術も知識もだいたい向上が見られ、継続した活動の成果が表れてきているようです。



フィリピン口唇口蓋裂手術

めているため海外の援助も多く受けられるようになってきていま

す。今後どこで活動を実施していくか検討が必要です。



ベトナム・ハイフォン市庁舎



ミャンマー日本大使館医務官

KDC株式会社 平成24年度事業報告 (平成24年10月1日～25年9月30日)

KDC株式会社の会計年度は10月1日～翌年9月30日であり、11月28日に開催した株主総会に於て平成24年度の決算及び事業報告が承認されましたので、その概要についてお知らせします。

1 当社の平成24年度営業実績は以下に示した通りである。

売上総利益	48,596,643円(前年比1,05)
販売費及び一般管理費	40,330,151円(前年比0,92)
経常利益	9,823,753円(前年比3,22)
当期純利益	6,380,065円(前年比3,22)

2 この結果当社の純資産額は25,250,791円(前年比1,34、対資本金比2,81)となった。

3 各事業別の収支は下の表に示した通りである。すなわち自販機設置事業、生涯研修支援

事業および食堂管理事業を除いていずれの事業も前年比13～19%の減収であり、結果として総収益も前年比9%減となったが、経費の抑制により経常利益を確保した。

- 1) 病院売店事業：売上は前年に比べて102万円増加したが、支出も212万円増加した為、110万円の減収となった。支出増加の原因は、前年度に在庫管理を徹底して仕入を抑えた為在庫が減少し、仕入が増えた事によるものである。
- 2) 自販機設置事業：昨年業者を変更した事による設置協力金の半額が今年度に納入された為、収入が前年に比べて約253万円増加した。尚、支出は過払金を業者に返還したものである。
- 3) 受託事業：3月末で歯科技工請負を中止した事により、前年に比べて収入、支出共に減少した。
- 4) 教科書・実習書販売事業：4月から

学期制が2学期制から5学期制に変更になった事に加えて、講義担当者が変更になった科目があり、その結果、教科書や実習書を使用しないでプリントで済ませる科目があった為、売上が減少した。

- 5) 学生寮管理事業：今年度、入居学生の減少により収入、支出共に減少した。
- 6) 生涯研修支援事業：前年度に比べて、収入、支出共に減少したが、支出の減少がより大きかった為、収益は1.94%増となった。
- 7) 食堂管理事業：昨年度は4カ月営業の結果であったのに対して、今年度は12カ月営業の結果である為、収入が約178万円増加した。尚、支出は施設維持費、製麺機設置および食券機3台と

衛生ボックスのリース料負担によるものである。

- 8) 資料館管理運営事業：今年度から新たに開館された資料館の管理・運営を委託された。5月以降の見学実習校からの利用料収入約240万円に対して、カビ除去工事を始め防犯カメラ、エアコン3台、火災報知機の設置、更に足拭マット(リース)およびリーフレットの印刷その他雑費等合せて約573万円の支出があり、収支は333万円の赤字であった。

4 大学への貢献：

- 1) 9月10日付で500万円を寄付した。
- 2) 学内4か所にAED(自動体外式除細動器)を設置した。
- 3) 解剖実習室とその周辺のカビ除去費用の一部を負担した。

平成24年度事業別収支

	収入	支出	収益	前年度比(%)
1 病院売店事業	22,361,495	13,950,343	8,411,152	88.49%
2 自販機設置事業	10,361,938	445,370	9,916,568	128.86%
3 受託事業	14,214,530	11,769,030	2,445,500	84.42%
4 教科書販売事業	39,334,092	37,386,556	1,947,536	81.61%
5 学生寮管理事業	26,287,900	18,683,339	7,604,561	87.78%
6 生涯研修支援事業	2,342,039	1,611,821	730,218	101.94%
7 食堂管理事業	2,451,798	559,930	1,891,868	282.21%
8 資料館管理事業	2,399,000	5,729,103	△3,330,103	前年度実績なし
総計	119,752,792	90,135,492	29,617,300	91.01%

第2回神奈川歯科大学各科対抗フットサル大会

平成25年11月15日(金)に神奈川歯科大学附属病院・第2回各科対抗フットサル大会を行い、見事横浜クリニックの優勝で幕を閉じました。第1回大会優勝は附属病院補綴科であり、我々補綴科が幹事を行う事となりました。今回の大会は台風での延期、当

日の雨などで参加者の皆様には多大なご迷惑をお掛けしましたが、病院長の小林優先生、院長の井野智先生の御尽力により、前回よりも多い総勢120名近くの病院関係者にご参加頂きました。第1回大会から1年間練習を重ねてきたチームもあり、前回よりハイレベル



な試合運びに見ている側もとても興奮していたのを覚えています。

この大会は附属病院のコミュニケーションマネジメントの一環でもあり、今回横浜クリニックから24人もご参加頂いたこと、そして今回から新たに監督枠を設置し、助教以上の先生方にも積極的に参加して頂いたことは前回大会の目的に+aできたのではないかと思います。結果だけ言えば附属病院の一員として大変悔し

い思いもありますが、この事を共通項として皆様の話題にして頂く事で、今後は、より意義のある大会にしていきたいと思えます。

最後になりましたが賞品等様々なご協力を頂いた、田中歯科器械店、株式会社ヨシダ、株式会社モリタ、の方々にご心より御礼を申し上げます。

なお、次回幹事は横浜クリニックとなっております。沢山のご参加お待ちしております。



第8回神奈川歯科大学白菊会総会及び懇親会

平成25年10月5日(土)に白菊会第8回総会並びに懇親会が執り行われました。

式典には、ご遺族様・会員様・教職員・2年生ら、総勢238名の方々にご参列賜りました。冒頭、本学にご献体賜りました1,849柱の御霊に黙祷を捧げそのご冥福をお祈りいたしました。白菊会役員金子様の開式の言葉に続き、本学を代表して佐藤学長と高橋(常)教授よりお言葉を頂戴し、2年生代表齊木林太郎さんと浅井五月さんから、解剖実習の体験と感謝の言葉が語られました。

次に、本年度解剖実習にご献体賜りました3名のご遺族様より「献体への遺族の想い」と題し、学生達に向けてお話を賜りました。この後10分間の休憩をはさみ、玉置教授(顎交合機能回復補綴医学講座)より「大規模災害に備えた個人情報入り刻印義歯の開発」と、大平講師(災害医療歯科学講座)より「大規模

災害時の身元確認の為の生前DNAデータ登録」と題した講話を賜り、続いて文部大臣からの感謝状をご遺族様4組に佐藤学長から手渡されました。その後、10分間の準備の後、松尾准教授(口腔科学講座)のご挨拶、峯村事務局長より献杯のご発声を賜り、懇親会が執り行われました。白菊会事務局からの連絡事項の

後、今回、一昨年に発足した「神奈川歯科大学友の会」の皆様による「合唱」披露を行いました。皆様が良くご存知の3曲を熱唱致しました。歌は人の心を和ませ、皆様とても楽しい一時を過ごす事ができました。午後1時35分、次回諸霊供養の会でのご再会を確認し、第8回白菊会総会は無事終了いたしました。



第49回稲岡祭 ～ONE PIECE～

平成25年10月12日(土)、13日(日)の2日間、「ONE PIECE」をテーマとして稲岡祭が開催されました。大海賊時代の海洋探検物語を描いた人気アニメもワンピースですが、テーマとして選ばれた意味は、パズルにおいてピース

スが一つでも欠ければパズルが完成しないように、学生(PIECE)が一人でも欠ければ稲岡祭は完成しないということで、全学生の参加を目指し、歯科大生と短大生が一丸となって学園祭を作り上げました。

各クラブからは様々な出店があり、ステージではPOPS部・音楽部・軽音楽部・ダンス部が華やかな公演を見せてくれました。特別イベントとして「のど自慢大会」が行われ、歯科大・短大から歌に自信のある学生が校内に美声を響かせ、大変盛り上がりました。優勝は透き通った歌

声とコミカルなダンスで大勢の観客を巻き込んでステージを盛り上げた短大看護学科1年出口真紀さんでした。準優勝は女性を魅了する素晴らしい歌声で観客を聞き惚れさせた歯大3年姜東均さんでした。



☆優勝☆短大1年出口さん



☆準優勝☆歯大3年姜さん



《稲岡祭実行委員長 短期大学部 看護学科2年 柳原 龍人》
今年是全学生の参加を目指し呼びかけを行いました。その結果自ら有志を募って店舗を経営してくれたり、ステージ上で発表してくれる学生がいました。大変嬉しく思います。今年の稲岡祭の内容は去年と同様に本学歯科医師・歯科衛生士による「無料歯科相談」と看護師・看護学生による「健康チェック」を実施しました。さらに「BLS(一次救命

処置)」を加え、一般の方々にも命の大切さ、また誰の手でも救えるのだという知識を知ってもらいました。

12日(土)には「のど自慢大会」で盛り上がり、審査員として佐藤貞雄学長、塗々木和男教授、作曲家・ミュージシャンである中村佑介氏、お笑い芸人キングオブコメディと素晴らしい方々に審査員を務めていただき大いに盛り上げていただきました。最後には影山ヒロノブ氏によるLIVEがス

テージで繰り広げられました。さらにアンコールがかかりそれに答えてくれたのでステージが熱く繰り広げられました。

翌13日(日)には4組のお笑い芸人ゆっぺい、ギフト☆矢野、ラブレッタズ、ブルーセレブに来ていただきました。その次に大道芸人Chokkunとゆうやけによるパフォーマンスを披露していただきました。最後には「MAX Special LIVE!」がステージで熱く繰り広げられました。

この度実行委員長を務めて2日目最後のプログラムが終了した時に大きなイベントを成し終えたという達成感と無事に成功をしたという安心感を得られました。今回いろいろと苦勞する部分もありましたが、それを乗り越えることができる自信もつきました。この度実行委員長を務めさせていただいてとてもいい経験ができました。ありがとうございました。

教学部だより

歯学部



教学部学生担当部長
榎木 恵一

平成 25 年度学生生活について

近年、入学者の多様化や国家試験の難化により、学生生活を取り巻く状況は大きく変化しています。特にカリキュラムの変更なども重なり学生支援は、従来にも増して重要な課題と考え、本年度クラス担任制を強化しました。具体的には学長・学生部長・クラス担任の連携を密にし学生面談を多く実施し、出来るだけ問題点の早期発見に努めています。また近年、クラブ活動や稲岡祭なども停滞傾向

となつているため、課外活動をより活発化するため課外活動活性化委員会を立ち上げ、平成 26 年度に向けた新しい課外活動の在り方を模索しています。特に、来年は稲岡祭 50 周年の大きな節目を迎えます。地域も巻き込んだ楽しいイベントの企画も検討しています。

さらに大学は、学生に対してサービス機能の向上という視点を持ち、様々な取り組みが必要です。具体的には、2 回の父母懇談会の開催による父母との連携強化、学習室の整備などの施設の充実、災害から命を守る防災体制の強化、授業アンケートの実施による授業の改善などを実施しました。

今後とも「教員中心の大学」から、多様な学生に対するきめ細やかな教育・指導に重点を置く「学生中心の大学」を目指します。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

短期大学部



教学部学生担当部長
林田 丞太

学生会活動

「やり遂げた!というのが率直な感想です」と、夜の 10 時頃に弾んだ声で話してくれたのは、学生会の学生。稲岡祭の終了日、後片付けを終え報告の電話でした。最近の学生は「個」を大切にすあまり、「皆のため」という意識が薄くなっていると感じます。その現れとして学生自治組織に参加する学生がめっきり減っています。特に医療系の大学においては、講義、臨床実習、国試の勉強に追われ時間的余裕がありま

せん。そんな中、放課後や休日を使い稲岡祭をはじめとするイベントの企画、渉外、運営などを行っています。きっとその時点では、自分のためとは思えず、「皆のため」との思いから頑張っているのでしょうか。しかし、事を無事に成し遂げた時に初めて学生は、自分のために頑張ってきたのだと感じるに違いありません。それが電話の言葉になったのでしょうか。苦勞の後に得られる達成感や充実感をひっくり返した成功体験こそが、次の苦難を乗り越える糧となります。国試に向かう勉強においても同様です。10 代から 20 代への貴重な大学生活を勉強だけではなく幅広く過ごすことが大切だと考えます。

来年度の稲岡祭は第 50 回目となります。教職員をはじめ幅広い皆様のご参加を得、記念する稲岡祭をとし学生の経験値を上げたいと思います。ご協力、よろしくお願いたします。

2014 年度入学試験実施一覧

歯学部歯学科 (定員 100 名 男女)					
試験区分	試験日	合格発表	試験区分	試験日	合格発表
卒業生子女 2 期	2014 年 1 月 24 日(金)	2014 年 1 月 28 日(火)	一般 1 期	2014 年 1 月 24 日(金) 1 月 25 日(土)	2014 年 1 月 28 日(火)
卒業生子女 3 期	2014 年 2 月 16 日(日)	2014 年 2 月 18 日(火)	一般 2 期	2014 年 2 月 16 日(日)	2014 年 2 月 18 日(火)
卒業生子女 4 期	2014 年 3 月 9 日(日)	2014 年 3 月 11 日(火)	一般 3 期	2014 年 3 月 9 日(日)	2014 年 3 月 11 日(火)
帰国子女・外国人留学生 2 期～4 期	卒業生子女と同じ		センター利用 1 期	2014 年 1 月 24 日(金)	2014 年 2 月 10 日(月)
編入学 2 期～4 期	卒業生子女と同じ		センター利用 2 期	2014 年 2 月 16 日(日)	2014 年 2 月 18 日(火)

※詳細はホームページをご覧ください

短期大学部					
歯科衛生学科 (定員 120 名 男女)			看護学科 (定員 80 名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表	試験区分	試験日	合格発表
一般	2014 年 2 月 2 日(日)	2014 年 2 月 4 日(火)	一般	2014 年 2 月 2 日(日)	2014 年 2 月 4 日(火)

※詳細はホームページをご覧ください

大学院			
試験区分	定員	試験日	合格発表
Ⅱ期	8 名	2014 年 2 月 18 日(火)	2014 年 2 月 21 日(金)
Ⅲ期	若干名	2014 年 3 月 11 日(火)	2014 年 3 月 14 日(金)

※詳細はホームページをご覧ください

オープンキャンパス 2013 年度日程

歯学部 オープンキャンパス 2013 年度日程	
実施日	体験授業
2014 年 3 月 16 日(日)	新 3 年生対象

※詳細はホームページをご覧ください

短期大学部 オープンキャンパス 2013 年度日程			
実施日	歯科衛生学科 体験授業	看護学科 体験授業	
2014 年 2 月 16 日(日)	体の深部体温はどのくらい? 発熱と低体温	体の音を聞いてみよう	
2014 年 3 月 23 日(日)	歯科衛生士の仕事	看護師の仕事	

※詳細はホームページをご覧ください

【資料請求問合せ先】

◎歯学部歯学科

お電話での請求：046-822-9580(教学部入試広報係直通)
 葉書・手紙での請求：〒238-8580 横須賀市稲岡町 82
 神奈川歯科大学教学部入試広報係
 メールでの請求：nyushi-shigakubu@kdu.ac.jp
 ホームページからの請求：大学 URL より入試資料請求へ
 (大学 URL：http://www.kdu.ac.jp/)

◎短期大学部歯科衛生学科・看護学科

お電話での請求：046-822-8780(短期大学部教学部直通)
 葉書・手紙での請求：〒238-8580 横須賀市稲岡町 82
 神奈川歯科大学短期大学部教学部
 メールでの請求：seikyu-tandai@kdu.ac.jp
 ホームページからの請求：大学 URL より入試資料請求へ
 (大学 URL：http://www.kdu.ac.jp/)

【歯学部学費改定のお知らせ】

2014 年度入学生より 歯学部の学費が変わります。
 初年次学生納付金 850 万円 ⇒ 395 万円へ
 6 年間の学費総額 3055 万円 ⇒ 2700 万円へ
 さらに一般入学試験 1 期にて、学生納付金免除
 ※成績上位 1 位～10 位までが対象